

糸井版
櫻州合邦辻

せつしゅうがっぼうがっじ

木ノ下歌舞伎

2020年11月2日[月] - 3日[火・祝]

ロームシアター京都 サウスホール

企画制作：ロームシアター京都、木ノ下歌舞伎／一般社団法人樹来舎

製作：ロームシアター京都

共同製作：徳の国とよはし芸術劇場PLAT、KAAT神奈川芸術劇場

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）| 独立行政法人日本芸術文化振興会  ニッポン



ロームシアター京都
ROHM Theatre Kyoto

本日はロームシアター京都レパトリー作品、木ノ下歌舞伎『糸井版 摂州合邦辻』にご来場いただき、誠にありがとうございます。

2016年1月にリニューアル・オープンしたロームシアター京都は、「劇場文化をつくる」を目標に掲げ、自ら企画・制作する自主事業を行っています。

レパトリー作品 木ノ下歌舞伎『糸井版 摂州合邦辻』は、ロームシアター京都が継続して行っているプログラム「レパトリーの創造」の一環として、2019年2月に穂の国とよはし芸術劇場PLAT、KAAT神奈川芸術劇場との共同製作によって誕生しました。

「レパトリーの創造」は、時代を超えて永く上演される作品を、アーティストと協働しロームシアター京都が主体的にプロデュースすることを狙いとしています。今回は東京・豊島区はあうるすぽっとからの再演のオファーをいただいたことをきっかけに、早くも2020年11月に京都でもその再演の機会を得ることができ、多くの方々にご覧いただけることを大変喜ばしく思います。

さて、「摂州合邦辻」は、説経節「しんとく丸」、「愛護の若」、能「弱法師」などを元にした人形浄瑠璃、歌舞伎作品として成立し、その物語は現代になっても折口信夫、三島由紀夫、寺山修司、中上健次など数多くのアーティスト・研究者に影響を与え、小説、戯曲、論考などあらゆる形式を取り

ながら、今日まで語り継がれてきました。

この長い変遷を辿る物語の系譜の中、木ノ下歌舞伎版では近年の文楽、歌舞伎上演で主となっている下段の「合邦庵室の場」だけではなく、そこに至るエピソードや設定が描かれる上段、さらには「弱法師」「しんとく丸」などからも作品・人物の要素を掘り起こし、糸井と主宰・木ノ下裕一が“いま語り継ぐべき物語”として上演台本を共同執筆、再構成しました。古来より日本人が持つ死生観、聖俗への畏れ、都市の姿とそこで生きる人々の剥き出しの「生」……、壮大なスケール感をもって観客の皆様を新たな物語の世界へ誘います。

今回の再演にあたっては、新たなキャストを得るとともに、初演の成果をさらに進化／深化させるべく、木ノ下、糸井による増補と新曲の書きおろしに挑みました。人間模様の造形と神話的世界を深め、作品はさらに壮大なスケールへと跳躍し、一つの決定版ともいえる領域へ到達することになるでしょう。この古典と現代が往来するダイナミックな舞台を、どうぞ存分にお楽しみください。

新型コロナウイルス感染拡大の厳しい状況の中、様々な感染防止対策などを講じつつ、本公演の実現に向けてご協力、ご尽力いただきました、出演者・関係各位に感謝の言葉を申し上げて、ご挨拶といたします。

ロームシアター京都

木ノ下歌舞伎は様々な演出家とタッグを組み、その都度、タッチの異なる作品を上演していますが、本作では、糸井幸之介さんをお招きして、浄瑠璃の大曲『摂州合邦辻』に挑んでおります。糸井さんの、オリジナル楽曲と演劇を織り合わせ、唯一無二の劇世界を織り上げる“妙マジカル”という独自の手法によって仕立て直された『糸井版 摂州合邦辻』は、2019年にロームシアター京都のレパトリー作品として上演され、ご好評いただきました。この度、ロームシアターさんに加え、以前から「糸井演出の木ノ下歌舞伎を!」と名乗りを上げてくださっていたあうるすぽっとさんのお力によって、早々に再演の機会をいただいたことを嬉しく思っています。

再演と申しましたが、「せっかくなら初演時にやり残したこと!」という欲が出てしまい、初演を大きく上回るボリュームになってしまいました。くしくも緊急事態宣言発令中に、糸井さんと何度もオンラインで構想を練り、台本も全場面を再補綴・加筆しました。ちなみに古語部分は木ノ下を主に補綴チームが、現代語の部分は糸井さんがそれぞれ担当しております。糸井さんには、新たなシーンに加え、新しい曲も一曲書き下ろしていただきました。初演よりも上演時間が25分も増え、休憩をはさんでの二幕構成になりました。初演に引き続き、北尾亘さんの渾身の振付も大きな見どころです。どうぞ“増補”『糸井版 摂州合邦辻』をお楽しみください。

『摂州合邦辻』は江戸時代後期の作品ですが、そのルーツは遠くインド神話にあるといわれています。日本では、

室町時代においてすでに説経節「しんとく丸」として広く知られ、民間に深く浸透していきました。本作品の再演にあたり、名もない人々によって語り継がれてきた物語の重みをより強く感じました。生活苦や病苦、生きているかぎり続く様々な悲しみを抱え、二進も三進も、どうにも身動きが取れなくなった人が唯一、自由に所有できたのは〈物語〉であったのかも知れません。かつて孤独な人間たちの爛れた心を癒した〈物語〉は、今、心身ともに身動きのとらずさを抱える私たちにどのように働きかけてくれるのだろうか。そんなことを思いながら作りました。

最後になりましたが、「やれることは全部やる」という並々ならぬ気概で現場の感染防止対策を徹底してくださった劇場のみなさん、そして制作班に改めて感謝申し上げます。常にマスク着用、飲食時の会話厳禁、距離を取った控え席……、“いつも通り”ではない稽古環境にあっても、集中力高く走り抜けてくださった俳優陣、限られた時間と制約の中で、大車輪で作品を立ち上げてくださったスタッフの皆様、そして、もちろん、そんな中ご来場いただいたお客様にも、深く御礼申し上げます。

本日はご来場いただき誠に、誠に、ありがとうございます。一緒に、〈物語〉の幕を、開けていただけましたら幸いです。

木ノ下裕一

木ノ下裕一

1985年生まれ、和歌山市出身。木ノ下歌舞伎主宰。小学校3年生の時、上方落語を聞き衝撃を受けると同時に独学で落語を始め、その後、古典芸能への関心を広げつつ現代の舞台芸術を学ぶ。2006年に古典演目上演の補綴・監修を自らが行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。代表作に『娘道成寺』『黒塚』『東海道四谷怪談一通し上演』『心中天の網島』『義経千本桜―渡海屋・大物浦―』など。2015年に再演した『三人吉三』にて読売演劇大賞2015年上半期作品賞にノミネート、2016年に上演した『勸進帳』の成果に対して、平成28年度文化庁芸術祭新人賞を受賞。第38回(令和元年度)京都府文化賞奨励賞受賞。渋谷・コクーン歌舞伎『切られの与三』(2018)の補綴を務めるなど、外部での古典芸能に関する執筆、講座など多岐にわたって活動中。平成29年度京都市芸術文化特別奨励制度奨励者。

木ノ下さんとお芝居を作るのは、何本目になるでしょうか？
たぶん、今回で木ノ下歌舞伎が4本目、一緒に市民劇も2本作ったことがあります。

6本の内3本が再演(というかリクリエーション?)ですので、木ノ下さんと作った作品は、全て再演することになります。

再演というのは、別れた恋人と再び付き合いはじめるのに、ちょっと似ています。

好きな気持ちはあるけれど、色々あって別れた恋人と、数年の後、運命のタイミングのようなものが合って、もう一回付き合い合ってみる?みたいな感じです。

ですから、作品を通して、3人の木ノ下さんと付き合い、それぞれ復縁しているような、不思議な感覚があります。

たまに、木ノ下さんの魅力について考えるときがあります。
一つ一つ上げたらきりがありませんが、なんというか、馬が合うのだと思います。

似ているところもたくさんありますが、正反対のところもたくさんあります。

いい感じで補い合ってるのかもしれませんが、何からなにまで補ってもらってるような気がします。

ともかく、馬が合うのだと思います。

合邦の再演を作りながら、人間の寂しさのようなものを考えました。

合邦の物語と人間の寂しさがベストマッチかどうかはちょっと分かりませんが、自分がこの物語にアプローチしていくにはそれしかないと思ったからです。

どうぞみなさん、耳を澄まして、感じていただければと思います。

ご来場、ありがとうございます。

糸井幸之介

糸井幸之介

1977年生まれ、東京都出身。劇作家・演出家・音楽家。2004年に女優の深井順子により旗揚げされたFUKAIPRODUCE羽衣の全作品で作・演出・音楽・美術を手掛ける。全編の7割ほどを演者が歌って踊る、芝居と音楽を融合した独自の作風を“妙—ジカル”と称し、唯一無二の詩的作品世界と、耳に残るオリジナル楽曲で高い評価を得ている。世田谷区芸術アワード“飛翔”2008年度舞台芸術部門受賞。FUKAIPRODUCE 羽衣第22回公演『瞬間光年』(2017年上演)にて第62回岸田國士戯曲賞最終候補。多摩美術大学講師。セゾン・フェロー。木ノ下歌舞伎では、2015年『心中天の網島』初演、ロームシアター京都レパトリーの創造として、17年『心中天の網島—2017リクリエーション版—』、19年『糸井版 摂州合邦辻』で演出・音楽を務めた。

主な配役

たまたごぜん
玉手御前…内田 慈
しゅんたくまる
俊徳丸 ……土屋神葉

あさかひめ
浅香姫 ……永井茉梨奈
じろうまる
次郎丸 ……永島敬三

やっこいりへい
奴入平 ……谷山知宏
はびきの
羽曳野 ……伊東沙保

たかやすみちとし
高安通俊 ……山森大輔
つばいへいま
壺井平馬 ……飛田大輔
高安通俊 妾 ……石田迪子

おとく ……西田夏奈子
がっぼうどうしん
合邦道心 ……武谷公雄

あらすじ

大名・高安家の跡取りである俊徳丸は、継母の玉手御前から恋い慕われ、家督相続を渴望する異母兄の次郎丸からは妬まれている。そんな折、癩病に侵された俊徳丸は父への不孝を詫び、許嫁の浅香姫を捨てて高安の家を出奔してしまう。

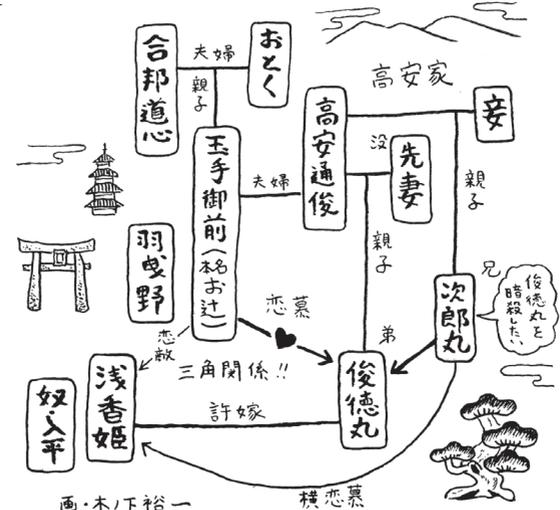
俊徳丸は西へ西へと歩いていった。大坂・四天王寺に到着した俊徳丸は、これまでの半生を思いながら日想観¹を行う。すでに両目は癩病で見えなくなっていたが、西に沈む夕日をひたすらに拝むと、俊徳丸の心には光り輝く四方の景色が映るのだった。夫の行方を訪ねる浅香姫は、変わり果てた姿の俊徳丸と出会う。そこへ浅香姫に横恋慕する俊徳丸の

異母兄・次郎丸がやって来て浅香姫を連れ戻そうとするが、玉手御前の父親・合邦道心の手助けにより、俊徳丸と浅香姫は合邦夫婦の家に匿われることになる。

一方その頃、玉手御前も俊徳丸の行方を尋ね、高安の家を飛び出して合邦夫婦が住む実家へとやって来る。両親は俊徳丸への邪恋を思い切らせようと諫めるが、玉手御前は取り合わない。その様子を聞いた浅香姫は俊徳丸を連れて逃げようとするが、玉手御前はどこへも行かせまいと恋敵の浅香姫に襲いかかる。堪りかねた合邦は娘を手にかけるが――。

*1 西に沈む太陽を見て、その先にある極楽浄土に思いを馳せる修行法。

人物相関図



キヤスト

内田 慈

内田 慈

1983年生まれ、神奈川県出身。日本大学芸術学部文芸学科中退後、演劇活動をはじめ。08年には「ぐるりのこと。」でスクリーンデビュー。その後は映画「ロストパラダイス・イン・トーキョー」「きみはいい子」「恋人たち」「下衆の愛」「葛城事件」「響—HIBIKI—」「ピンカートンに会いに行く」(主演)など話題作に次々と出演。ダブル主演のひとりを務めた社交ダンスコメディ「レディ・トゥ・レディ」や「ホテルロイヤル」「SEASONS OF WOMAN」など公開予定の映画も多数控えている。ドラマでは、日曜劇場「半沢直樹」新シリーズに出演し話題を呼んだ。また、Eテレの幼児向け番組「みいつけた!」ではデテコイスの声を長年担当しておりジャンル問わず活躍の場を広げている。木ノ下歌舞伎『糸井版 摂州合邦辻』初演では主演の玉手御前を務め、硬軟自在な熟演が絶賛を浴びた。

谷山知宏

永井 菜葉

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

谷山知宏

1981年生まれ。花組芝居所属。2005年、愛・地球博 群読叙事詩劇『一粒の種』作・演出 J・A・シーザー、振付 謝珠栄に出演。06年9月、花組芝居に入座。以来、すべての劇団作品に参加。ダンスで鍛えた柔軟な体と独特の感性で男役、女形、両方をこなす。特徴のある声も人気で、CMなどでも活躍。13年から約5年間は、NHKBSの子供番組『ワラッチャオ!』に、メタホン役の声でレギュラー出演した。『東海道四谷怪談』（新国立劇場）では小仏小平、劇団公演『毛皮のマリー』『マリー』、『黒蜥蜴』『黒蜥蜴』と、タイトルロールも多く演じている。昨年は、『どん底』（新国立劇場）“男爵”、花組芝居『義経千本桜』“狐忠信”で、好評を博し、演技の幅を広げている。木ノ下歌舞伎には初参加となる。

永井 菜葉

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

キヤスト

土屋 神葉

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

キヤスト

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

キヤスト

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

飛田大輔

石田 迪子

内田 慈

山森大輔

西田夏奈子

武谷 雄雄

作：菅専助、若竹笛躬
監修・補綴・上演台本：木ノ下裕一
上演台本・演出・音楽：糸井幸之介 [FUKAIPRODUCE羽衣]
音楽監修：manzo
振付：北尾亘

出演：内田慈 土屋神葉
谷山知宏 永島敬三 永井茉梨奈
飛田大輔 石田迪子 山森大輔
伊東沙保 西田夏奈子 武谷公雄

舞台美術：鳥次郎、角浜有香
照明：吉本有輝子
音響：小早川保隆
衣裳：大野知英
ヘアメイク：須山智未
補綴助手：稲垣貴俊、山道弥栄
演出助手：岩澤哲野、山道弥栄
演出部：川村剛史 [ロームシアター京都]
舞台監督：大鹿展明

歌唱指導：伊藤和美
振付アシスタント：高谷 楓
照明操作：吉田一弥、岩元さやか
音響操作：益川幸子
マイクケア：野中祐里
字幕システム：福岡想

美術製作：俳優座劇場 舞台美術部 大橋哲雄
歌舞伎小道具：藤浪アート・センター 浅海 敬
運搬：植松ライン

制作アシスタント：堀朝美
制作：武田知也、宮崎麻子 [ロームシアター京都]、本郷麻衣
観劇サポート：音声ガイドナレーション | 持丸あい、字幕 | 北村太一

宣伝美術：外山 央
宣伝写真：井上嘉和
宣伝映像：桜木美幸
特設WEB：増本泰斗

医療アドバイザー：藤田裕晃
[東京医科大学病院 感染症科 / 感染制御部]

協力：古館健、沼田かおり、FUKAIPRODUCE 羽衣、Baobab、
劇団ひまわり、花組芝居、ゴーチ・ブラザーズ、芹川事務所、ギフト、
真昼、RYU、ムーンライト、カンパーナ、カンカラ社、サウンドウィーズ、
iroNic ediHt DESIGN ORCHESTRA、libido、特定非営利活
動法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク (TA-net)、一般社団
法人日本障害者舞台芸術協働機構、Palabra 株式会社

ロームシアター京都スタッフ
舞台：鳥村弘之、石田昌也、朝霧賢二
照明：柴田順、林いづみ、大塚咲季、亀井杏寿、苗木絵葉
音響：合田洋祐、山川文彦

広報：長野夏織、松本花音
プログラムディレクター：橋本裕介

企画制作：ロームシアター京都、木ノ下歌舞伎 / 一般社団法人樹来舎
製作：ロームシアター京都
共同製作：穂の国とよはし芸術劇場PLAT、KAAT神奈川芸術劇場

主催：ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興
財団)、京都市
助成：文化庁文化芸術振興費補助金 (劇場・音楽堂等機能強化推進
事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会 

木ノ下歌舞伎『糸井版 摂州合邦辻』公演スケジュール
東京公演：2020年10月22日 [木] - 26日 [月] あうるすぽっと
京都公演：2020年11月2日 [月] - 3日 [火・祝] ロームシアター京都